

## クリスマスローズの育て方

※今回配布したクリスマスローズは若い苗のため、数年経たないと花が付きません。

大切に見守って育てていただき、数年後に見事な花を楽しみましょう。

大きく育ったら、増やすことにもチャレンジしてみてください。

キンボウゲ科、草丈30～60cm

\*栽培環境(日当たり・土壌等) 明るめの日陰、半日陰を好みます。日なたでも育ちますが、真夏の直射日光が長時間当たる場所は避けましょう。  
水はけの良い土壌が適しています。酸度は弱酸性から中性が望ましいです。

\*水やり 夏に何日も雨が降らない時を除いて、基本的に水やりの必要はありません。

\*肥料 1回目：10月～11月に緩効性の化学肥料（花付きをよくするため）  
2回目：4月に緩効性の化学肥料（お礼肥として）

\*病気など 葉の全体が黄色になっている場合⇒窒素不足  
葉の一部が黄色い場合⇒カリウム・マグネシウム不足  
葉ばかりが茂って花付きが悪い⇒窒素肥料過多

\*その他 花の咲く時期は1月～4月。(今回配布の苗は数年後に花が見られます。)  
草丈：5～15cm  
11～12月に葉が密集している場合は、新しい芽を傷つけないように注意して古葉を取り除くとよいです。

通常は花が咲いたら種ができないうちに（どんなに遅くとも梅雨前までに）花がらを取りましょう。  
種ができると株が疲れてしまいます。（株を増やしたい場合は5月まで種を残し育ててから採取する。）

\*株分けと種まき 長年育て、かなり大きくなった株であれば、10月頃に株分けすることができます。  
その際は、あまり細かく分けすぎないように注意しましょう。

株分けで大量に増やすことはできませんが、種でも増やすことができます。  
5月ごろ採取した種をすぐまくか、保存して秋に蒔いてみましょう。  
発芽するまでの間は日陰で管理し、種を乾燥させないように注意します。  
（種で増やす場合は、花色、花形が違う花が咲きます。全く同じものにならないのでどんな花が咲くか、がまたお楽しみのポイントです！）



# 芝桜の育て方

～元気なカラーを楽しみましょう～

ハナシノブ科、草丈10cm程度

## \*栽培環境(日当たり・土壌等)

日なたを好み、水はけのよい土壌が向いています。

水はけの悪い土壌だと高温、多湿期に株が蒸れて腐りやすくなります。

## \*水やり

植え付け後、根付くまでは土が乾き始めたらたっぷりと水を与えます。(1～2ヶ月程度)

その後、庭植えの場合は降雨のみで大丈夫です。過湿に弱いので、水の与えすぎに注意して下さい。

鉢植の場合は、土が乾いたらたっぷり水をやります。

## \*肥料

2～3月に液体肥料を規定倍率に薄めたものを2週間に1回程度与えます。

また、3月下旬に暖効性肥料を規定量置き肥します。

そのほかの月は必要ありません。

## \*病気と害虫

ほとんど発生しません

## \*その他

花後に、茶色くなって枯れた花がらを切るようにして刈り込みます。

梅雨の時期までに行うと、株が蒸れて枯れるのを防ぎます。



# クリーピングタイムの育て方

～爽やかな香りを楽しみましょう！～

シソ科/耐寒性多年草、草丈5～15cm

- \*栽培環境** (日当たり・土壌等) 関東以南の暖地で常緑で越冬します。  
日当たりのよい水はけのよい場所がお勧めです。  
生育は旺盛で、寒さや暑さに強く、這うように横に広がって育つので、花壇の縁などに向いています。  
酸性の土壌が苦手なので、あれば苦土石灰をまくなどして土壌の調整をするとよいです。
- \*水やり** 湿気が苦手気味なのでやや乾燥気味に育てます。(土が乾いたらたっぷり水やりします。)  
夏場の蒸れに注意してください。
- \*肥料** 植え付けをするタイミングで、あれば土にゆっくりと効く粒状の肥料を入れるとよいです。  
追肥は必要であれば4月～6月、9月～11月に液体肥料や土の上に置くタイプの固形肥料を与えましょう。  
肥料が多すぎると香りが薄れることもあるので注意しましょう。
- \*病気と害虫** ほとんど心配はありません。
- \*その他** グランドカバーに最適です。  
花壇の縁に植えて下に垂らすように仕立てるのもおすすめです。  
葉や花には香りがあります。  
株分け・挿し木で増やすことができます。  
花の後に、株元でバッサリと切り戻します。  
また、株元が蒸れて株の様子が汚くなったら思いきって切り戻します。  
その他、冬前に地際で切り戻し剪定をします。

